

毎週日曜発行
2023 9/17

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



宮城・女川町の魅力と課題は？

ニュース



こども記者が取材

宮城県女川町は、東日本大震災で大きな被害を受けました。女川小5年のこども記者4人が、町の地方卸売市場と温泉施設を取材し、復興していく町の魅力や課題を探ったよ。

(8面に関連記事)

こども記者は柿内葉月さん(11)と紺野六花さん(10)、今野絢華さん(10)、鈴木碧虎さん(10)の4人です。女川町は水産業が盛ん。地方卸売市場を訪ねると、定置網で取れた魚が水揚げされていました。

市場の運営会社「女川魚市場」代表取締役専務の丹野秀之さん(60)が「魚はベルトコンベヤーで運び、大ききごとに自動で仕分けしています」と説明してくれました。四つ並んだタンク(縦1・6尺、横1・3尺、深

脂乗り上々のギンザケ

さし(1尺)には、サバやチダイ、アジが入っていました。



今野さんがお薦めの魚を聞くと、丹野さんはサンマと養殖ギンザケを挙げました。「最近不漁続きで残念ですが、女川と言えばサンマです。養殖ギンザケは円安などの影響でノルウェー産サ

ーモンの輸入が減り、逆に注目されるようになった。肉質が良くおいしい」と胸を張ります。市場は震災で全壊し、現在の建物は2017年に完成しました。「全国から冷凍庫や氷が届き、支えてくれた仲間がいました。水産の町として、みんなで一歩ずつ協力していこうという思いでした」と振り返ります。22年度の水揚げ量は約



水揚げされたばかりのサバが入ったタンクをのぞく4人

丹野さん(左)に水揚げ量などを取材する4人



3万ト、売り上げは約75億円でした。「震災前は約8万トの水揚げがあった。被災の影響で冷凍、加工業者が減ったことも響き、まだまだ復活途上と言えます」



4人は、魚市場の仕事にも興味津々です。柿内さんが「一番大変なことは何ですか」と質問すると、「朝早いことかな。ギンザケのシーズンが始まると、水揚げ準備のため午前1時に出社することもあります」との答えが返ってきました。4人は「すごい」と、尊敬のまなざしを向けました。

今週の注目ニュース

◇20日(水) お手玉の日
1992年、「全国お手玉遊び大会」の初開催を記念し、「日本のお手玉の会」が制定しました。豆の入った布製がおなじみですが、海外には羊のくるぶし(フランス)や竹(ミャンマー)で作られたお手玉も。

今日の紙面

- 2面 みんなのギモンにこたえるモン
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 こども記者インタビュー

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ